

2021年10月15日

## 気動車として日本初！

### 九州鉄道記念館に展示中の「キハ四二〇五五号気動車 (キハ〇七形四一号気動車)」が国の重要文化財指定へ！

JR九州が所有する九州鉄道記念館（福岡県北九州市）で開館当時から展示している「キハ四二〇五五号気動車」（キハ〇七形四一号気動車）が、2021年10月15日（金）に国の文化審議会において、重要文化財（美術工芸品）に指定をすべきとの答申を受け、重要文化財に指定される運びとなりました。

九州に存在する鉄道車両としては初めて、また、「気動車」としては日本で初めての指定となります。当社では、重要文化財の意義、重要性を認識したうえで、引き続き展示車両として、加えて文化財としての保存に努めてまいります。

#### 1 車両の概要について

##### (1) 気動車の概要

気動車（きどうしゃ）とはエンジンを搭載した列車の車両のことで、運転に必要な動力源として、内燃機関を搭載して自走する鉄道車両です。

##### (2) 車両の概要

###### ○仕様

製造年：1937年  
製造会社：日本車輛  
車体長さ：約19m  
重さ：約27トン  
定員：120人（製造時）



外装



車内

###### ○特徴

戦前の代表的な機械式（クラッチで変速する方式）気動車で、連結運転の時は双方の運転士が合図しながら走っていました。昭和27年にはガソリンエンジンをディーゼルエンジンに変更しており、中央2枚が大きい6枚窓と大きな曲面を描く独特の前面も特徴です。

###### ○当該車両の歴史

1937年（昭和12年）	日本車輛製造株式会社にて製造
1952年（昭和27年）	ガソリンエンジンからディーゼルエンジンに変更
1957年（昭和32年）	豊後森機関区に配置され宮原（みやのはる）線で使用
1969年（昭和44年）	引退（引退後、豊後森機関区や大分運転所で保管）
2003年（平成15年）	九州鉄道記念館にて展示車両として保存

### (3) 文化財としての評価

- ・車体や内装の多くに製造時の姿をとどめ、昭和初期の旅客車の現存例として重要である。
- ・機械式の変速装置が残っている唯一の同形車輛である。
- ・車体の大型化と軽量化、ガソリン機関の出力向上と運行速度の高速化、車両の国産化と標準化を達成し、日本の気動車の技術発達史を俯瞰するうえで貴重であり、鉄道史、社会・経済史、科学技術上において重要である。

(文化庁報道発表資料より抜粋)

## 2 重要文化財指定に関する記念カードの配布

重要文化財に指定されることを記念して、特別に記念カードを作成しました。  
九州鉄道記念館に来館されたお客さまに先着 1,000 名様に配布します。

○配布開始：2021年10月16日(土)9:00～(なくなり次第配布終了)



カード表面 (イメージ)

【主要諸元】			
■製造:1937年(昭和12年)	■製造会社:日本車輛	■定員:96名	■最高速度:95km/h
■全長:19,694mm	■全幅:2,600mm	■全高:3,550mm	
■重量:約27.0t	■台車形式:TR29	■機関形式:DMH17(150PS)	

【キハ07形41号について】

戦前の代表的な機械式気動車で、製造当初はガソリンを燃料とするガソリンカーとして誕生し、キハ42055(キハ42000形)と呼ばれていました。特徴的な半円型のスタイルは1934年(昭和9年)頃から始まった流線形ブームの影響を受けたものと言われています。また当時の技術では難しいと言われた中間扉があるのも大きな特徴です。1935年(昭和10年)に行われた車両新製時の高速試験では、当時超特急と言われた「つばめ」よりも速く走ることができたというエピソードがあります。

戦争によるガソリン不足やガソリンに代わる燃料の高騰に加え、1940年(昭和15年)西成線・安治川口駅構内で発生した列車脱線火災事故の発生を機に1952年(昭和27年)にガソリンエンジンからディーゼルエンジンに変更し、引火しにくくコストの安い軽油を燃料とする気動車キハ42540(キハ42500形)に生まれ変わりました。その後1957年(昭和32年)車両称号規程の改正によりキハ07 41号(キハ07形)となりました。

この車両は1957年(昭和32年)豊後森機関区に配置され、主に宮原線(豊後一肥後小国間)で使用され、1969年(昭和44年)引退しました。

カード裏面 (イメージ)

### <参考>九州鉄道記念館について

- ・住所 福岡県北九州市門司区清滝2丁目3番29号
- ・営業時間 午前9時から午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休館日：第二水曜日(但し、8月は除く)。7月は第二水・木曜日。  
※第二水曜日が祝日の場合は、翌日に休館日を振り替えます。
- ・お問い合わせ 093-322-1006

明治時代建築の赤レンガ造りの建物。明治時代に九州で製作された木造客車の展示やC59型、9600型など懐かしい車両も多数展示。ファン必見の本格操縦体験など鉄道の歴史と遊びが詰まった記念館となっている。

